

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動

震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度1以上を観測した地震の表	2
高知県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	2

地震一口メモ

1922（大正11）年の気象庁地震カタログの作成について	3
------------------------------	-------	---

※「高知県の地震」は月1回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

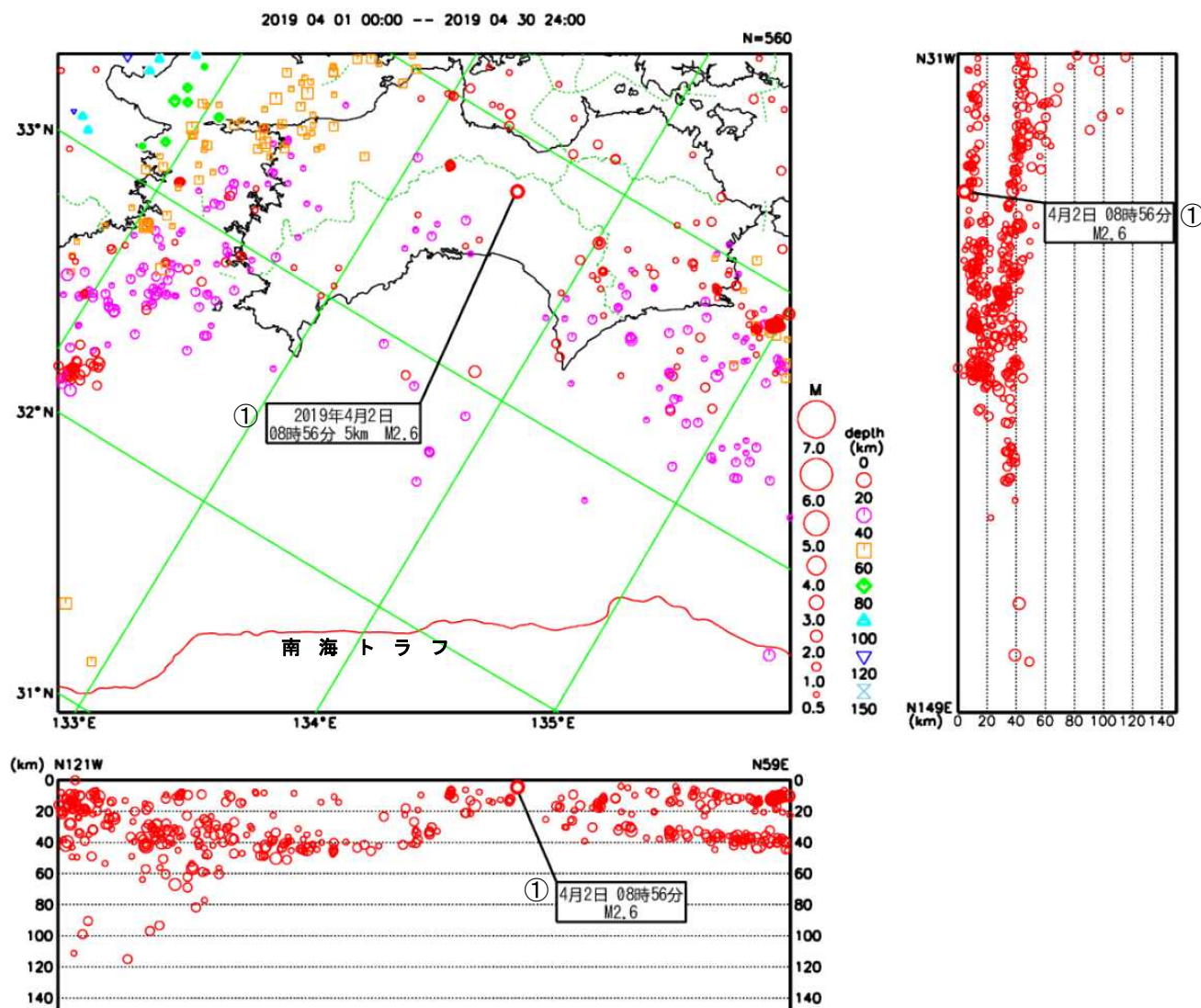
2019年（平成31年）4月

高 知 地 方 気 象 台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2019年4月1日～4月30日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさと色で表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東方向断面図(右)と西南西-東北東方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2019年(平成31年)4月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回でした(前月は5回)。

2日08時56分 高知県中部の地震(深さ5km、M2.6、震央分布図①)により、本山町・土佐町・大川村で震度1を観測しました。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震の表」

2019 年 4 月

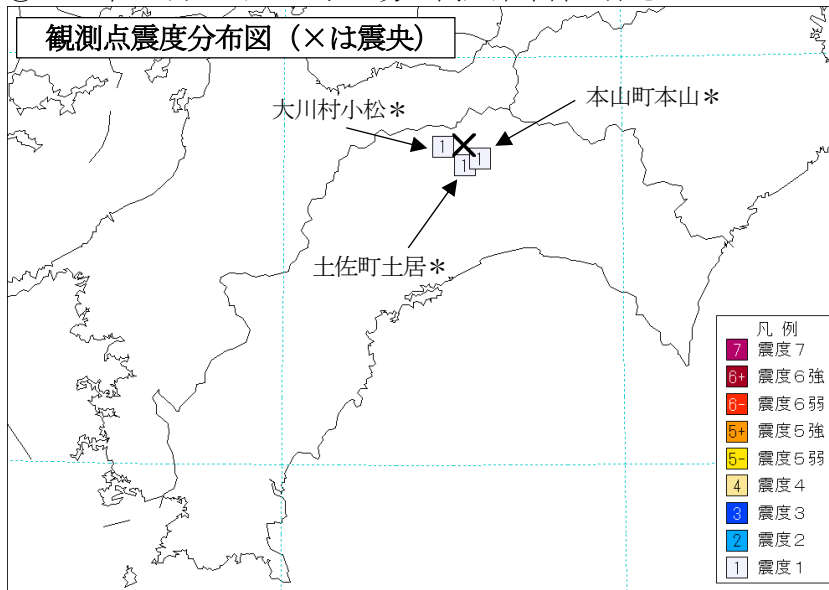
発震時刻 (年月日時分) 各地の震度 (高知県内のみ掲載)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2019 年 04 月 02 日 08 時 56 分 高知県	高知県中部	33° 47.0' N	133° 31.9' E	5km	M2.6

*印は、気象庁以外の震度観測点です。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図」

2019 年 4 月

①2019 年 04 月 02 日 08 時 56 分 高知県中部 深さ 5 km M2.6



※観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した地点が少ない場合、地点名を記載しています。

「地震一口メモ」

1922 (大正 11) 年の気象庁地震カタログの作成について

気象庁では、地震の震源・震度等のデータを地震カタログとして作成しています。この地震カタログは、国内外の研究機関等による調査研究の基礎資料として、長期的な地震活動の分析等に活用されています。このカタログにおける過去の地震データについては、資料の一貫性を図るため、現在の震源計算手法を用いて順次再解析を進めています。

これまでの地震カタログは、1923 (大正 12) 年以降の地震についてのみ作成していましたが、今般、1922 (大正 11) 年の地震データの再解析等が終了したことから、同年の震源等のデータを気象庁地震カタログに新たに追加し、2019 年 3 月 15 日に気象庁ホームページで公表しました。新たに追加した地震の数は 159 です。

1923 年以前の震源決定は、気象庁の地震調査原簿 (各地の検測値データを集約したもの) が関東地震で焼失したため極めて困難となっていますが、以下の作業を実施し決定しました。

- 既往の調査 (宇津 1982, 1985) と同様、地震観測原簿 (各地の測候所の原簿、図 1) をもとに他機関 (東京大学、緯度観測所) の検測値も集約しました。この際、震源の決まらない検測値も収録し、余震発生の様子等が推測できるようにしました。
- ISS (International Seismological Summary、国際地震センター (ISC) の前身) から、東京等の検測値を補足しました。

1922 年は、4 つの被害地震が記録されています。そのうち顕著なものは 2 つあり、1 つは、4 月 26 日 10 時 11 分に発生した浦賀水道の地震 (M6.8) で、東京、横浜で死者 2 人、東京湾沿岸で建物被害がありました。もう 1 つは、12 月 8 日に発生した長崎県千々石 (ちぢわ) 付近の地震で、01 時 50 分に M6.9、11 時 02 分に M6.5 の地震があり、前者の地震により長崎県で死者 26 人、住家全壊 195 棟などの被害がありました。また、M7.0 以上の地震も 3 回 (千島列島付近と台湾付近 2 回) あり、やや地震活動が活発な年でした。

1922 (大正 11) 年の震源・震度等のデータを追加したカタログは、以下の URL から取得することができます。

- (震源データ) <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/bulletin/hypo.html>
- (震度データベース) <https://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

1919 年～1921 年のデータについては、地震観測原簿を中心に再解析を続けており、結果については数年後を目途に公表を予定しています。

また、1976 年～1997 年 9 月までの震源についても、大学及び防災科学技術研究所などの検測値データを集約し再解析を行っており、順次公表することを予定しています。

The image shows a detailed seismic observation form from the Shinjuku Meteorological Station. The form is titled '地震観測表' (Seismic Observation Table) and includes fields for station name, date, and various seismic parameters. It contains handwritten entries for a seismic event on April 26, 1922, with details on P and S wave arrival times and amplitudes.

図 1 新潟測候所 (現新潟地方気象台) の地震観測原簿 P 波、S 波到着時刻と振幅値などが記載されています。震度の欄の弱 (震度弱キ方) は震度 2 を意味しています。

1922 (大正 11) 年の気象庁地震カタログについての報道発表
<https://www.jma.go.jp/jma/press/1903/15c/1922jishin.html?563>